

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502546		
法人名	サッポロ・ライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家白石		
所在地	札幌市白石区平和通11丁目北3番14号		
自己評価作成日	令和3年2月25日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170502546-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170502546-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普通の生活を当たり前にごせる介護を心掛け。家族のような雰囲気を大切にし最期まで心を込めて安心した生活が出来るように支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にある2階建て1ユニットのグループホームである。周辺には複数の公園、幼稚園、コンビニエンスストアなどがあり、生活しやすい。1階に居室と浴室、会議室など、2階に居室と居間や食堂などの広い共用空間が配置されている。2階の共用空間には大きな天窓が複数あり明るい。トイレや浴室、廊下、階段は広く、エレベーターも設置されている。壁には行事の写真などを張り、居室の入り口を広く取り、入りやすくしている。感染症の流行により利用者と家族の面会が難しくなっているが、毎月発行する「虹の家だより」に利用者の写真を多く載せて家族に送付するとともに、事業所のブログでも利用者の暮らしぶりを伝えている。また、職員に感染症流行によるストレスや不安が見られる場合は、勤務シフトを工夫し、体調が整えられるように配慮している。重度化支援は、提携医との協力で看取りができる体制を整え、開設後9名ほどの看取りを行い、経験を積んでいる。日々の生活支援の面では、利用者全員の排泄状況をチェックし、利用者の状態に合わせた排泄支援を行っている。入浴は循環式のお風呂で、いつでも気持ちよく入浴でき、好みの湯加減に調整し入浴を楽しんでいる。外出行事が減っているが、感染症収束後は再開したいと考えている。清潔で明るい環境のもと、いきいきと生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とスタッフルームに理念を掲げ共有し、実践している。	「利用者さん一人一人の尊厳と人格を尊重する」という文言を含む理念と「地域の自然や人とのふれあいを大切に」という文言を含むケア理念がある。最近、唱和や確認が不十分な面もあり、共有の強化を図る方針としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から挨拶を交わしたり、ごみ集積場の掃除や雪かきを行っている。	近所を散歩する際には住民と挨拶し、花壇の花を見せられている。感染症流行前は、地域の新年会に利用者が参加したり、事業所のクリスマス会には住民による歌や踊りの披露を受けていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長が白石区の男性介護者向けのセミナー講師としてアドバイスをを行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により実際に顔を合わせたのは年度内3回であったが状況報告を行い、励ましの言葉を頂いた。	運営推進会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、町内会役員、事業所関係者が参加しているが、家族の参加は得られていない。活動報告や外部評価などのテーマで意見交換し、議事録を家族に送付している。	感染症終息後に通常開催に戻る際には、計画的にテーマを設定して開催することを期待したい。また、引き続き家族の参加を呼びかけるとともに、参加が難しい場合は事前に意見を聞いて会議に取り上げるなどの取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本部がこまめに市役所担当者と連絡を取り事業所に伝えてくれた。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、情報提供を受けている。区が行う男性介護者向け講習に、管理者が講師を担当したりテキスト作成に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修など行い指針に沿って拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行なわれておらず、年5回の身体拘束廃止委員会と、年2回以上の勉強会を行っている。現在は感染症対策のため玄関を日中も施錠している。利用者の外出希望があれば同行し、閉塞感を感じさせないようにしている。	身体拘束の勉強会について、開催記録や資料を分かりやすく整理、保管しておくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い防止に努めている。		

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の方に後見人がついている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にもそれ以降も不安、疑問、理解しかねていることがあれば何度でも説明させていただき、理解、納得をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ブログをこまめに更新し意見を書き込めるようにしている。	家族には主にケアプランを説明する際に意見を聞き、意見を個人記録とスタッフノートに記して共有している。また、利用者の写真を載せた「虹の家だより」を毎月作成し、家族に送付するほか、ブログでも利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	総務部長が現場へ赴き、職員の意見等聞いている。	感染症流行のため集まっての会議が難しく、管理者が職員に必要事項を個別に伝達するほか、文書で情報を共有している。職員に感染症流行によるストレスや不安が見られる場合は、勤務シフトを工夫し、体調が整えられるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得が出来るように手配したり、資格取得により手当を上げるなど、環境・条件の整備に努めて居る。今年度1名が介護福祉士の受験をした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体介護の方法についてスタッフ同士で話し合ったり、方法を検討したりと普段の仕事の中で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他グループホームの管理者と連絡を取り情報交換していた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や要望を伺い、不安に思っていることに耳を傾け安心の確保に繋げている。しっかりした信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から関係づくりに努め、入居に対しての不安や、入居後の要望についてもよく話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のお話を伺うことにより必要な支援と、ホームで出来る事、他のサービス利用が望ましいのかを説明しご理解を得るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に様々な作業を共に行い楽しい時間が共有できるように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限の為直接会ってお話する事はめったになかったが日々の記録のコピーを送ったり電話をしたりして情報共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であったためいつものようにとはいかなかったが墓参りなど密にならないところへは行っていた。	1名の利用者に知人が訪ねて来るほか、1名の利用者が昔住んでいた地域の喫茶店へ友人に会いに行くことがある。親戚の法事に家族と出かけた。定期的に納骨堂に通う利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や季節の飾りもの作り、行事など楽しみを共有し、利用者様同士の好みに応じて共有感を大切に支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった方の葬儀に参列させて頂いたり一周忌や三回忌に供物を送ったりしていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話だけでなく、職員全員が日々の生活を見守る中で利用者様の良い表情や態度を観察し、本人本位の生活をして頂けるよう努めている。	言葉で思いや希望を表出できる方は3分の1ほどで、難しい方も表情やしぐさから把握している。センター方式のアセスメントシートを更新しながら生活歴や趣味・嗜好の情報も把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は生活歴等の話を聞いた際、記録に残して情報を共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が得た情報は記録したり、お互いに情報交換したりと職員全員が利用者様一人ひとり、どのように過ごされているか把握出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの時や普段から意見交換をし、利用者様やご家族の要望を確認しながら介護計画を見直している。	利用者ごとに2か月または3か月ごとの期間を設定して介護計画を更新している。職員から個別に意見を聞いてケアプラン評価を行い、次の計画を作成している。利用者ごとの24時間シートに介護目標の実施状況をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間チェックシートにて実践・結果をチェックし、気づきやその時々の声掛けを個人記録に書き情報を共有し、介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆さん重度化している為、個々に対応するよう努めた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の中に市民後見人がついている方がいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療、週1回の訪問看護によって健康管理がされている他、体調に変化があった時には、その都度主治医に報告し、指示を頂き、必要があれば他医療機関に受診もしている。	全員が協力医療機関による往診を受けている。眼科などは家族に通院支援を依頼している。受診内容を個人ごとの「医療ノート」に記載して共有し、家族には医師からの「在宅療養生活のポイント」を渡している。	

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護の時に一週間の様子を話し必要に応じて対処法など適切に対応を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医より入院先の病院へ情報提供をし、日常の状態は管理者が対応している。退院については早期退院ができるように病院関係者、家族、利用者様と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を作成し、それに基づいて支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し、同意の署名・捺印を得ている。実際に重度化した場合は看取りの同意書を得ている。開設後、9名ほどの看取りの経験を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し。全職員が心構えを持てるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の町内会館への避難協力など体制を築いている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、数回に1回、消防署の協力も得ている。一方、最近住民の参加が得られていない。救急救命訓練は新人を中心に受講している。緊急時に使える暖房設備の用意も検討中である。	避難訓練に地域住民の参加が得られるよう、働きかけを期待したい。また感染症の収束状況に合わせて、全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには職員全員が意識しながら行っている。個人記録も頭文字で記入している。	本人の希望で、家族の了解を得て愛称で呼んでいる利用者もいる。気になる言葉遣いや対応はその都度指導している。外部研修で接遇について学ぶこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で判断できないような場合は、二者択一などで選択して頂くなどの工夫をして出来るだけ個人の希望や好みに添えるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活のペースを考え、柔軟な対応が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったご本人が気に入っている物を着て頂けるようコミュニケーションを取りながら選んだり解除したりしている。		

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを考慮してメニューを考えたり、料理の下ごしらえなどで利用者様が一緒に活動できるように、お一人お一人に合わせた働きかけをしている。	食材会社の献立で、行事に合わせて季節感のある食事を楽しんでいる。利用者は野菜の下拵えを手伝ったり、白玉団子などを作っている。感染症流行前は、家族と一緒に外食に行くこともあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間の水分とは別に希望した時や、お手伝いの後などにコーヒー、ココア、抹茶ラテ、ミルクティーやコーラなど好きなものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に合わせてガーゼやスポンジを使用したり、本人の力に応じ声掛けにより解除したり行って頂いたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パット利用の方、車イスの方もトイレ誘導し排泄して頂いている。夜間も各利用者様の排泄パターンに合わせ声掛けトイレ誘導させて頂いている。	自立している利用者も多いが、全員の排泄を記録して時間の間隔や行動、仕草を見ながら個々に合わせてトイレでの排泄を支援している。身体状況に応じて、ベッド上で排泄用品を交換することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動や腹部のマッサージをしたり、オリゴ糖を摂取して頂いたり便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回曜日を決めているが、その日の体調や気分により変更できるようにしている。	日曜日以外の午後の時間帯で、一人週2回の入浴を支援している。入浴を拒む場合も日にちを変えることで、スムーズな入浴につなげている。循環式の湯船で清潔感がある。好みの湯加減にし、職員と会話をしながら入浴をゆっくり楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の表情や行動などから休息を促している。ベッドシーツは常に清潔で居室内の温度や湿度の調節をし、夜間も気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人で服薬できる方でも、確実に飲み込むまで見守りを行っている。内服薬変更の場合はノートに記入し確実に申し送り、症状の変化がないか観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や新聞たたみ、掃除手伝いなど出来る事を行って頂いたり、歌を歌ったり、外気浴をしたりごほう先生の体操などを行っている。		

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので近くに散歩に行ったり外気浴をしたりなど行っていた。	普段は、車いす使用の利用者も一緒に事業所周辺を散歩したり、近隣の花壇を見て外気に触れている。季節に応じて近くの公園で桜や紅葉を見学したり、お盆には庭先で花火をして楽しんでいる。感染症流行前は川下公園などに出かける機会もあった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なるべく人混みは避けて糸の買い物支援は行わなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話を掛けて声を聞いてもらったりしていた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーで車イスの方も安心して過ごして頂けるようになってきている。日当たりの良い居間にはソファや畳がありくつろげる空間を作っている。季節ごとの飾りつけも工夫している。	居間と食堂には天窓があり、明るく開放感のある造りになっている。大きなソファもあり、ゆっくり落ち着いてテレビなどを楽しむことができる。廊下や階段には行事の写真や利用者の作品を掲示し、出窓には花や観葉植物を飾っており家庭的な温もりが感じられる。猫の縫いぐるみもあり、利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファに座ったり、テーブル席に居たりご自分の好きな所において音楽やテレビを楽しんだりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具を使用したり、使い勝手の良い家具を購入したり、写真や自分の好きなものを飾ったりしている。	吊戸棚が備え付けられている居室の入り口は広く、車いす使用の利用者もスムーズに出入りできる造りになっている。籐の椅子やテレビ、仏壇など馴染みの物を持ち込み、家族の写真や自分の作品を飾り落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭用エレベーターがあり下りた時にどこかがわかるように表示し、エレベーター内にも行き先を表示している。また、各お部屋には表札をつけてご自分のお部屋をわかるようにしている。		

## 目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌麻生グループホーム

作成日：令和 3年 3月 29日

市町村受理日：令和 3年 3月 30日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	感染症終息後に通常開催に戻る際には、計画的にテーマを設定して開催することを期待したい。また、引き続き家族の参加を呼びかけるとともに参加が難しい場合は事前に意見を聞いて会議に取り上げるなどの取り組みを期待したい。	運営推進会議内において計画的にテーマを設定して開催する。また、家族の参加を呼びかけ、難しいときは意見を取り上げる。	通常の推進会議にて年度のテーマをある程度決める。 家族参加が難しいときは事前に意見を聞く。	1年
2	6	身体拘束の勉強会について、開催記録や資料を分かりやすく整理、保管しておくことを期待したい。	勉強会の資料を整理整頓、保管する。	資料の整理、職員の確認印意見を記録、保管を分かりやすく整理整頓する。	1年
3	35	避難訓練に地域住民の参加が得られるよう、働きかけを期待したい。また、感染症の収束状況に合わせて、全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう取り組みを期待したい。	状況を見て地域住民へ参加の働きかけを行う。また、救急救命講習が開始するときには計画的に参加する。	感染状況が落ち着いている場合は避難訓練への参加を地域住民へ働き掛ける。救急救命講習会が再開された場合、計画的に職員を参加させる。	状況による
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。